

区 会長	[開会] 本日の第 4 回審議会では、答申案を確定する。本日の資料には、小委員会を含め、これまでの審議会でもいただいた意見が反映されている。改めてご確認いただき、発言の主旨と異なる反映がなされている箇所があれば、事務局からの説明後、意見いただきたい。
区 会長	それでは議題に進む。以降の進行を会長に委任する。 第 3 回審議会では答申の素案と将来像を示し、意見をいただいた。今回は、みなさまの意見をもとに答申案を修正したため、その内容について検討したい。本審議会は今回を含め、残り 2 回となる。次回は区長への答申を行うため、今回で答申の内容を概ね確定といたし、前向きな意見をいただきたい。 進行にあたり、まずは今回の審議会の成立について事務局より報告いただきたい。
区	本日の審議会の成立について報告する。 審議会の成立要件については、荒川区基本構想審議会条例第 6 条第 2 項において、審議会は委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができないと規定されている。 本日は半数以上の委員が出席し、定数要件を満たしているため、本会議が成立していることを報告する。
会長 会長	ただいまの報告により、審議会の成立を確認した。 次第に入る前に、本日の会議で検討する内容および配布資料について事務局よりご説明いただきたい。
区	本日の会議で検討いただく内容および配布資料について説明する。 第 3 回審議会での意見を踏まえて、基本構想の答申案を修正した。本日は、第 5 回審議会での答申に向けて、答申案について審議いただきたい。 配布資料について説明する。 資料 1 は、「荒川区基本構想答申案」である。第 3 回審議会での意見を踏まえて修正した。修正部分には網掛けをして示している。 資料 2 は、第 3 回審議会での意見と、意見を踏まえた修正等の対応方針をまとめた表である。 資料 3 は、基本構想の全体的な構成をイメージ図としてまとめたものである。 資料 4 は今後の審議会のスケジュールを示したものである。 なお、机上に、4 月 2 9 日開催の川の手あらかわまつりの際に実施した、基本構想に関するオープンハウス型アンケートの実施結果報告

	書を配付している。 説明は以上である。
会長	それでは次第に沿って進行する。改めて、第3回審議会ではみなさまよりいただいた意見を踏まえて修正した答申案が、資料1および資料2である。まずはこちらについて審議する。資料3以降はのちほど意見を頂戴したい。 修正内容は、事務局と会長でいただいた意見を精査し、調整した。意見は可能な限り答申案に反映するよう努めたが、全体の構成や整合性との兼ね合いから直接反映できていないものもあり、それらは今後の参考としたい。修正の方針については資料2にて記載している。 本日は、まず事務局から答申案の全体について、修正箇所を中心に説明いただいたのち、みなさまより全体を通じての意見いただきたい。その後、資料3および資料4についての議論に移る流れとなる。
会長	それでは、次第2「荒川区基本構想答申案」について、資料1と資料2について事務局から説明いただきたい。
区	基本構想答申案について説明する。 資料1には前回の審議会の意見を踏まえて修正した答申案を、資料2には前回の審議会の意見とそれへの対応を示している。答申案に沿って変更箇所を中心に説明する。 まず、「2040年の荒川区の未来創造ビジョン」について説明する。 第3回の審議会では、答申案に示す「将来像」について、これまでに審議会や区民ワークショップ等で出てきたキーワードを踏まえて5つの案を示し、議論いただいた。今回は、その意見を踏まえ、1つの案に絞って示している。今回示した案は、「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」である。 選定理由は、まず、これまでの審議会や区民ワークショップ等で「区民が主役」「主語は区民」といったキーワードを複数いただいた。これを踏まえ、荒川区に関係する一人ひとりの「ひと」が主役であり、中心であることを示すとともに、「荒川区に関係する全ての『ひと』が、地域の主役として、それぞれの個性や強みを活かして生き生きと活動していく」という前向きなメッセージを出すため、その人の良さや強みを発揮することを示す「活きる」、活動や活躍を示す「活」という言葉を採用し、これをやわらかい表現とするため、ひらがなで「ひとがいきる」という言葉を選定した。 また、審議会や区民ワークショップ等で「自分たちのまちは自分た

	ちでつくる」「ともにつくる」「つながる・つなげる・つむぐ」といったキーワードを複数いただいた。横ぐしを刺して、横断的に様々な主体が協働してまちをつくっていく必要性についても審議会の複数の委員からいただいた。これを踏まえ、地域のあらゆる関係者がともに未来の荒川区をつくっていくという前向きなメッセージを出すため、「ともにつくる」という言葉を選定した。 そして、これら２つを組み合わせ、「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」という言葉を選定した。 なお、現行の基本構想では、目指すべきまちの姿を「将来像」という言葉で示しているが、現在、社会経済状況の変化のスピードが速く、地域課題も一層複雑化・多様化する中、審議会の皆様から、行政だけでなく区民や企業、団体といった荒川区に関わる全ての人々が主役となり、共に荒川区の未来を創造していく必要があるとの複数の意見をいただいた。 今回お示しした「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」という言葉は、２０４０年の未来の荒川区を、区に関わる全ての人々が主役となって、これから一緒に創造していくというメッセージとなっていることから、「将来像」という言葉ではなく、「２０４０年の荒川区の未来創造ビジョン」という言葉に修正した。 基本理念については、第３回審議会でお示した内容から変更はない。「幸せを紡ぎ、幸せを感じる」「共に支え、共に育む」「未来につなぎ、未来をつくる」の３つを基本理念として掲げている。 基本目標は、「将来にわたって『ひと』が育つまち」「みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち」「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」「安全安心で快適に暮らせるまち」の４つを掲げた。 なお、４つの基本目標のタイトルは、第３回審議会時点では、例えば、「将来にわたって『ひと』が育つまち」の前に端的にそれを表現した「はぐくみ」というタイトルを設定していたが、第３回審議会で議論した結果、「タイトルが抽象的でイメージしにくいいため、ない方が分かりやすい」といった意見が多数であったことから、設定せず、「将来にわたって『ひと』が育つまち」というタイトルのみとした。 基本目標の主な修正箇所を説明する。 基本目標 「将来わたって『ひと』が育つまち」の修正箇所はない。 基本目標 「みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち」については、「行政の支援に関する記載がないため、地域に任せきりと捉えられないよう、行政の支援の要素を反映してはどうか」との意見
--	--

	をいただいた。本基本目標の実現のためには、区民や企業・団体、行政等の地域の各主体が連携して取り組んでいく必要があることから、本文に行政の支援の要素を追記し、「人と人とのつながりの中で区民、企業、団体が支えあい、行政が支援する、誰もが生きがいをもって過ごせるまちを実現します。」とした。 基本目標 「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」については、「人手不足、物価高騰など、足元の課題感が分かるキーワードがあると良い。ネガティブな側面を意識したワードを入れてはどうか」との意見があった。そこで、本文中に「人手不足の深刻化や原材料費・エネルギーコストの高騰による事業者経営への影響」といったネガティブな側面を意識したワードを入れた。 また、「下町の風情や情緒あふれる街並みといった荒川区らしい要素を入れてはどうか」との意見をいただいた。「下町」は荒川区らしさの要素の1つであることから、「人情味あふれる地域コミュニティ」や「町工場、商店街、繊維街、銭湯などの荒川区独自地域資源」といった文言を入れた。 基本目標 「安全安心で快適に暮らせるまち」については、足元の課題感が伝わるよう、「自然災害の激甚化・複合化、地球温暖化への対応、都市インフラや住宅の老朽化といったネガティブな側面を意識したキーワードを入れた。 次に政策ごとの目指す姿と方向性について説明する。 政策「子育て」について、「子育てを行う対象を親に限定しない方が良い」との意見から、「親」と表現していた部分を「親や養育者」とした。 政策「教育」については、「学校運営協議会」の要素を盛り込むべきとの意見を受け、「保護者・区民等が学校運営へ参画・支援・協力するなど、学校を支える地域活動の推進により児童生徒の健全育成を図る」と記載した。 政策「若者」については、「『若者が活躍できるまち』といった表現があると、『若者が活躍しなければならない』と捉えられてしまう可能性があるとの意見を踏まえ、政策のタイトルを「若者が自分らしく安心して活動・生活できる環境づくり」に修正し、目指す姿も同様に修正した。 政策「高齢」については、前回、政策の名称を「高齢・介護」で示していたが、「『介護』が高齢者に付随している、高齢者は介護されるというイメージを社会に与えてしまう可能性があるのではないか」と
--	---

	の意見を踏まえ、「高齢者」と「介護を受ける方」を分けて記載することとし、政策名を「高齢」に修正した。 また、目指す姿や政策の方向性についても、誤解を受けないよう書き分けた。 政策「障がい」について、前回示した案では、政策名を「障がい・生活支援」としていたが、追加意見で「障がいと生活支援は別ものとして考える必要がある」との意見があったことを踏まえ、両者を分離し、政策の名称を「地域福祉」とした。 これに伴い、「障がい」のタイトルを「障がい者が安心して暮らすことができる環境づくり」とした。 また、政策「地域福祉」のタイトルを「支援が必要な人をつなぎ、支え合う地域づくり」とし、目指す姿や政策の方向性を設定した。 基本目標「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」に関する政策について、『人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち』は、『新たな』がキーワードであると思う。タイトルや文章に入れてはどうか。」との意見から、複数の政策の方向性に「新たな」という言葉を追加した。 政策「産業」について、「下町の風情や情緒あふれる街並みといった荒川区らしい要素を入れてはどうか。」との意見から、政策の方向性に「活力と魅力あふれる下町ならではの商店街・個店づくりを進めます。」という下町に関する文言を盛り込んだ。 また、政策「観光・交流」のタイトルは、今回はこの政策名を「地域のにぎわい」としていたが、「基本目標の「にぎわい」という言葉と政策の「地域のにぎわい」という言葉が重複している」との意見から、「観光・交流」に変更した。観光の要素に加え、都市間交流により人が移動し、交流することによる様々な効果、経済面でのプラス効果等として整理した。 政策「防災」のサブタイトルについて、「区民は守られるだけではなく、自らが主体的になって防火防災訓練の実施や地域コミュニティを強化することが重要であり、「自助、共助」を推進しているのでタイトルに反映してはどうか」との意見を受け、「自助・共助・公助が一体となった災害に強い地域づくり」に修正した。 また、政策『防災』について、「風水害対応に触れるべき」との意見があったことから、政策の方向性に「地震・風水害をはじめとする各種災害への区内滞在者を含めたハード・ソフト両面での対策の推進や適切な情報の発信等により、あらゆる人の安全を守る取組を進めま
--	--

	す。」「地震や風水害時の避難体制の確立をはじめとする地域防災力の強化を推進します。」とした。 政策「生活安全」のタイトルについて、『交通安全』の要素が含まれていないのではないか」との意見から、一般的に、「防犯」や「交通安全」を包括的に表現する言葉として「生活安全」があることから、政策のタイトルを「防犯・生活安全」から「生活安全」に修正した。 政策「都市基盤」について、「景観の要素を入れてはどうか」との意見から、政策「都市基盤」の「目指す姿」と政策の方向性に「景観に調和した」という文言入れた。 また、「より実効性と時代の要請に合う形を追求するために、次世代モビリティなどに言及してはどうか」の意見から、政策の方向性に「新しい移動手段・交通システムの活用」という文言を追記した。 政策「住環境」について『みどり』の文言をどこかに入れたほうがよいのではないか。」との意見から、目指す姿と政策の方向性に「みどり」の文言を入れた。 なお、当初、政策のタイトルを「環境・清掃」としていたが、「清掃」は手段であることから、政策の目指す姿や政策の方向性で示す内容が「資源循環」に関する内容であることから、タイトルを「環境・資源循環」とした。 次に、2040年の荒川区のまちづくりを進めていくに当たって必要となる4つ分野横断的な取組について説明する。 まず、「分野横断的な取組」のタイトルについて、前回は「基本構想を実現するための区政運営方針」としていたが、分野横断的に対応するものであり、行政だけでなく区民や団体等と連携して対応するものも含まれていることから、タイトルを「分野横断的な取組」と端的な表現に修正した。 また、「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」について、「区民が「主体的にまちづくりをやっていく」ということをもっと出してはどうかとの意見から、『自分たちのまちは自分たちでつくる』という文言を追記した。 説明は以上である。
会長	基本構想答申案について、2040年の未来創造ビジョンについては、前回審議会にて多様な意見をいただき、事務局と調整した結果、「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」となった。3ページ以降は資料2にお示しした通り、第3回でいただいた意見を反映した。今回で答申案確定とすることを念頭に置き、前向きな意見をいただきたい。

委員	なお、基本構想答申案を今後どのように活用するのか、どのように政策に反映させるのか、KPI をどのようにモニタリングするのかについては第 5 回審議会にて議論する予定であるため、今回は基本構想答申案自体に対する意見をいただきたい。 網掛けとなっている前回からの修正箇所を中心に意見をいただきたい。 主役が大事であると考えており、その点も含め 2 点申し上げたい。 基本構想を区民全員に伝え、納得してもらうためには、一般的には理念をベースにビジョン、目標が位置付けられるという構造になるだろう。基本構想も理念からビジョンになっていたと記憶している。 基本構想答申案では、理念とビジョンの抽象度が近く、主役をビジョンに明示した方が、よりわかりやすく、浸透しやすいと考える。ビジョンと基本理念の順序の問題もあるが、ビジョンにはもう少し具体性を持たせた方がインパクトのあるスローガンとなるだろう。 「ビジョン」としては、ありたい姿の映像が浮かぶような表現が望ましい。お示しいただいた未来創造ビジョンでは、主役というニュアンスや、理念とビジョンの違いが伝わりにくく、両者の違いについても伝えられると良いだろう。
会長 委員	具体的にどの部分を、どのように変えるべきとお考えか。 理念は良いと考えており、これをベースとした場合、理念が実現した際、2040 年にどのような状態になればいいかという観点で、例えば、「一人ひとりが輝いて ともに未来をつくれる人情のまち あらかわ」のように、めざす街のイメージが映像化できると望ましい。3 つの基本目標を統合し、2040 年、私たちが荒川区にいるとどんな姿を見られるのかよりイメージできるような表現にできると良いだろう。
会長 委員	具体的に答申案をどのように変更すると良いか。 「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」も良いが、「共に未来をつくる人情のまち あらかわ」など、文言をより具体的な表現にして、基本理念と抽象度を変えられると良いかと考える。
区	これまでは、20 年後に荒川がどうなっているかということを描く「将来像」を位置付けており、平成 19 年に策定した現行計画では「幸福実感都市 あらかわ」がこれに該当する。 今回の策定プロセスは、第 2 回審議会にて、まず将来像を固めてから議論を進めていく方針を提案したところ、ボトムアップで各政策課題を把握してから進めてはどうかと意見をいただいた。そこで、小委員会を設け、2 回にわたって議論を重ね、ボトムアップ型で積み上げ

委員 会長 委員 会長 区 委員 委員	ることとし、議論の中で出された単語を拾って、未来創造ビジョンと基本理念を作成した。 前回までは「将来像」として位置づけていたが、区民ワークショップや審議会でもいただいた言葉から５つの案をお出しし、ご議論をいただいた結果を踏まえ、今回は「未来創造ビジョン」として位置づけることとした。 みなさまより、「ともにつくる」というキーワードに関する意見を特に多くいただいた。将来像というよりは、「2040 年に向けてみんなで目線を合わせて、人が活きるまちを共につくっていこう」というメッセージであるため、未来を創造していくためのビジョンとしている。 以上の通り、これまでの審議会での意見を踏まえて作成したところであるが、さきほどビジョンというよりはスローガンではないかという意見があった。将来像と位置付けることはやや違和感があるが、ビジョンと基本理念の重複感があるのであれば、「2040 年の未来を作るためのスローガン」という位置づけにすることも考えられる。 「ビジョン」というとやはり映像化したくなるため、より期待感が持てるような言葉になると良い。個人的には、「主役」と「ともにつくる」という言葉は必要で、ともに何をつくるのかというと「未来」であるため、これらの言葉が含まれているとメッセージ性があるかと考える。 「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」という言葉に追加できる要素には限りがあるため、その下の説明箇所に可能な範囲で意見を反映する方針でどうか。 思いが伝われば良いだろう。 ビジョンという用語の説明はあるか。 基本構想を実際に作る際には説明が必要になるだろう。説明箇所に記載したい。 用語については、定義が記載されているとわかりやすいだろう。 ビジョンについて、良いとフレーズであると考え。英語にするとWHAT 部分がないが、その部分は審議会等で決めてしまうのではなく、何を実現し、どのようなまちでありたいかは、みんなでもにつくっていくというメッセージとして、あえて余白にしておくことに価値があるだろう。 前回の審議会にて公募を提案したが、公募という手法そのものではなく、みんなでもつくっていくということが重要と考えている。そのた
---	--

会長 委員	めには関わりしろがあることが必要で、このフレーズでは WHAT の余白がその役割を担うため、とても良いだろう。 今回は、公募の実施は難しいということで理解した。次の基本構想やまちづくりマスタープラン等の策定時、選択肢の一つとしてはじめから公募を選択肢の一つとして想定いただけるとよいだろう。 公募について、最初から公募するやり方もあれば、いくつか審議会等で絞り込んだ上で公募するというやり方もある。意見を記録し、今後の参考とさせていただきたい。
区 会長	都市基盤の政策の方向性において、「新しい移動手段・交通システムの活用」という言葉を追加いただいた点については良いかと考える。 一方、生活安全の「新たなモビリティ」という言葉は、直訳すると、移動しやすさという意味になる。都市基盤を「移動手段」と記載するのであれば、こちらに合わせた方が良いということになるが、生活安全の方の記載を、「電動キックボード等」や「特定小型」のように限定することも一案だろう。「新しい移動手段」にはより広範な意味が含まれているようにも感じられるため、都市基盤の修正と合わせて生活安全の表現についても再検討いただけると良いだろう。 意見を踏まえ、生活安全と都市基盤の書き分けを検討する。 答申案の修正を部分的に行うべきという意見をいただいた。 細かな文言の整理は会長である私に一任いただき、本日意見いただいた内容については追記した上で、次回第 5 回審議会冒頭で答申案を最終確定し、区長に答申するという方針でよいか。
全体	～ 賛同 ～
会長	以上で基本構想答申案の審議を終了する。 続いて次第 3 にうつる。今後のスケジュールについて、事務局より説明いただきたい。
区	今後のスケジュールをご説明する前に、資料 3 を確認いただきたい。資料 3 は本日示した答申案の概念図に当たるものであり、参考にしたものである。 次に今度の審議会の今後のスケジュールについて説明する。 次回、7 月 27 日（月）の第 5 回審議会にて、本審議会より区長に対して答申をいただく。本日いただいた意見は、会長と調整のうえ、送付する。 開催時間は 18 時 30 分から、場所は日暮里サニーホールで実施する。

会長 区	資料３は初めて提示したもののか。
会長 委員 会長 委員	委員に対しては事前に送付している。審議会では以前これに近いものをお示ししており、今回改めて修正したものをお示した。 それでは、資料３および資料４について意見をいただきたい。 本日は資料３を確認したら終了ということか。 認識の通りである。 今後に関することは第５回審議会にて議論予定という話であるが、資料３について概念図がより伝わりやすくなるよう工夫をしたい。動画や絵本にするなども一案か。渋谷区の基本構想では、絵本を作成して説明していた。そのような、より伝わるような工夫について検討できればと考える。 さらに、「ともにつくる」のであれば、区内のデザイナーや絵本作家などと共創できるとよいだろう。 また、本日の議題がこれ以上ないのであれば、次回の議論の頭出しとして、次回以降の基本構想はどのように策定していくのがよいか深掘りできる時間を設けてはどうか。
会長 区	資料３については、活用先について説明したのち議論したい。 資料３は、審議会限りで作成したものである。基本構想については、審議会にて区長に答申した後、冊子や動画、概要版リーフレット等を作成するほか、子どもたちにワークショップで協力いただいたこともあり、子どもに伝わりやすいような方法での周知も検討している。
会長	第１回審議会より意見をいただいていた通り、区民に、基本構想を作り、これに基づき取組を進めていくということを理解いただくことは大変重要と捉えており、そのための検討は進めている。 次回審議会の頭出しをしてはどうかというご提案については、さきほどの話も含め、区民に基本構想をどう伝えるか、第５回までにどのような素材や展望が欲しいかについて自由にご議論いただくということによろしいか。
委員 会長	その方針で良いだろう。 それでは、自由に意見いただきたい。
委員	委員の意見にもあった通り、総合計画はひらがなだけの絵巻のような形で子どもたちに伝えるという方法をとっている自治体もある。 分野別横断的取組については、自分の意見も反映されており、全体的には良いかと考えている。 しかし実際のところ、行政は、同じ部・課で取組を行っていく文化も根強いのではないかと思料する。そのため、このまま進めると、結

区	局誰も掛け声をかけることなく、今後も分担されていくのではないかという懸念がある。誰がどのように掛け声をかけて進めていくのかについて、議事録にも記録した上で、一つひとつの事業単位まで落とし込む必要があるかと考えるが、横串の指し方や号令の出し方について展望はあるか。 また、「横串を指す」ということの表現について、コベネフィット等の文言はやや難しく、民意性に欠けるかとも考えていた。難しくない表現を検討し、一つの物事がいろんな分野に波及されるということを「つなげてからつくる」という表現で示してはどうかと考えた。
委員	分野横断的な取組について、行政は縦割りで、部・課がそれぞれの分野のことだけ考えているという指摘をいただくことが多い。その中で、今回の基本構想では、分野横断的な取組を位置付けている。我々が今まで主に考えてきた行財政運営の推進は、まさに行政がやることで、記載した内容について横串を指して取り組んでいくという意思表示として基本構想に示した上で、行政運営行計画（実行計画）ではさらに具体化し、意思表示だけで終わらないための具体的な行動計画として盛り込みたい。「つなげてつくる」という文言も参考にしつつ、絵にかいた餅にならないような方法を検討したい。 また、「区の魅力の向上とシビックプライドの形成」、「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」、「人権・平和・多様性の尊重」は、これまでの審議会の意見を踏まえて今回新たに分野横断的な取組として追加した。例えば、シティプロモーションにおいては、垣根を超え、広報・プロモーション課だけでなく、多様な課の事業をシティプロモーションという名の下で、愛着をもってもらえるよう宣伝活動をしようとし動き始めており、横断的な取組が始まろうとしている。 適切な表現を検討しつつ、分野横断的な取組が持続可能なものになるよう取り組みたい。
会長	活気とやる気が出るような基本構想とできると望ましい。20年先に向けた構想であるため、平らな表現とせず、活気とやる気があるものが良いだろう。
委員	具体的にはどのようなことか。
会長	それぞれが取り組んでいくということが記載されていない。
委員	具体的にどのように進めていくかは基本構想の下でこの後検討すべき事項と認識している。 失敗しても良いと思う。荒川は、こどもたちの遊び場が多い点は良

会長 委員	いが、「この先 20 年先こうやっていこう」という気概があまり感じられない。 具体的な改善案はおありか。 若者のやろうじゃないかという気持ちを引き出し、高齢者へのいたわりの精神を持ってもらえるような基本構想になると望ましい。また、失敗を恐れず、荒川で挑戦していこうというような文言も良いだろう。
会長 委員	もう少し前向きな表現にすべきという意見と拝聴した。 区側としては、やらせてやろうという積極的な主張があると良いだろう。ただ平らなことを書いているだけでは、熱量が伝わらないのではないか。
区	今後、基本構想の下に具体的な計画を策定するため、その際は活気のあるような内容としたい。
会長	どのように実現していくかがという展望がみえないというご指摘かと思われる。その点については次回審議会でも議論をさせていただきたく、言語化された資料をご用意いただきたい。
区	審議会としては、答申をお出しいただくところまでの議論になるかと思われるが、今後の展望として、今後区民への周知方法や、基本構想の下に策定される行政運営計画では、一つ一つの事業の目標を定めて進捗管理するというような全体観がわかるような資料を示す。
委員	平成 19 年に策定した現行計画の基本構想と、新たな基本構想の違いについて、メッセージがあると変化も伝わりやすいか。審議会に参加していない初見の人が見てもわかりやすいように、第 5 回の審議会にて、区長に対し、今回の基本構想ではどのような点が変更されたかというメッセージが出せると全部がつながっていくかと考える。
会長	答申案は答申案で良いが、区民に伝える際には、変化も含めた背景を示す資料が必要という意見と認識しているが、どうか。
区	社会情勢も変化した中で、基本構想がどのように変わったかを改めてみなさまと振り返ることは重要だろう。答申を受けたのち、行政で計画を改めて作成し、議会にも出すこととなっている。その際、前基本構想からの変化についても説明する必要があるため、次回集中的にご議論いただきたい。
委員	資料 3 について、ビジョンが上流にあり、その下で基本理念、基本目標が策定されているという構造がこの図で示されていると理解している。 その場合、4 つの基本目標がやや抽象的でわかりにくい。具体的に

区	荒川区として何を指すのかは、政策の方向性になる。各目標の政策分野４項目についても資料に加えた方が、より具体的でわかりやすく、図一つで全体観が伝えられるようになるだろう。
委員	資料３は、いわゆるポンチ絵で、構成を示しているのみとなっている。こちらはたたき台と捉え、今後基本構想としてまとめ、製本する際には、一見して全体観がわかるようなものになるよう、文字量やサイズも調整し、工夫していきたい。
会長	書き込みすぎるとわかりにくいということはあるが、政策の方向性の柱までは入れたほうが良いだろう。
区	分野横断的な取組の記載はないのか。
会長	分野横断については、表現が難しく資料３からは外すこととした。
区	資料３はポンチ絵としてこの場で活用する限りとして作成したものであったが、製本の際にはビジュアルライズも含め、改めて整理し、わかりやすい図となるようブラッシュアップしたい。
委員	資料３を見れば、基本構想の概観が掴めるようなものとする必要がある。次回以降ブラッシュアップいただきたい。
委員	実際には答申も受けて、基本構想を区として策定する。製本時は事業者やイラストレーターとも協力し、最終的な調整はその段階で行う想定である。
委員	資料３は、文言とビジュアルのたたき台としてわかりやすくまとめられている。現行の基本構想では、斜めの円盤の核に幸福実感都市という将来像が示されていた。概要版には、都電や荒川遊園の風景や航空写真が記載されている。
委員	答申後の配布物について、個人的な提案をしたい。かなりわかりやすくなったと同時に、「荒川」という文言がないと、どこにでも通用するようなものとなり得る。委員の「活気」という話にもつながるだろう。ポンチ絵でフリー素材を使っているという話もあったが、一目見て荒川区だとわかるようなものとして、例えばつながりや人の集まりのところに荒川遊園の観覧車の写真を入れるなど、これを見れば荒川のビジョンだということがわかり、将来への期待感が持てるようなものになると望ましい。荒川区らしさを出すための具体案について、答申後ご検討いただけるとこの会の成果があるだろう。
区	「幸福実感都市 あらかわ」を一步先に進める必要がある。区民が付いていきたくなるような基本構想になると望ましい。
委員	資料３は本審議会限りの図として作ったものである。基本構想として製本する際には、荒川区らしさや積極性も伝わるようなものとして

会長	お示しできるよう検討するため、ご期待いただければと考える。 資料３では荒川以外でも通じてしまう。区の独自性があり、一見して荒川区の基本構想とわかり、協働したくなるような魅力的な図にしてほしいという意見だろう。
委員	「幸福実感都市 あらかわ」を確認し、改めて歯切れの良いフレーズであると感じた。ただし、「実感」は実際に住むことで感じられ、住むことで経験するというニュアンスである。 今回の「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」は、「いきる」、「つくる」という能動的に自分たちがしていくという主体性のニュアンスが加わった。このような前回との違いを可視化すると、今回のインパクトがより伝わるだろう。
会長	分野横断的な取組の中の「主体的な活動を支える」ということが新たな基本構想の要点となっているが、資料３からは伝わりにくいという意見かと思われる。今後のブラッシュアップに生かしていただきたい。
委員	行動を誘発していく必要があるだろう。「ひとがいきる」、「ともにつくる」という綺麗な表現のままだと、具体的な行動につながるイメージが持ちづらい。今後の資料次第であるが、より具体的に、取組をした結果どのような状態になり、反対に、取組をしないとどのような状態になる恐れがあるのかということを可視化していく必要がある。 丸の重なりが横串かと読み解いている。区民が見て、他人事のように感じられるのではなく、自分たちがやる必要があるということが伝えられると望ましい。
区	次回審議会にてお示しするものも、冊子にそのまま掲載されるということではない点については了承いただきつつも、極力わかりやすい図となるよう工夫したい。 資料３のブラッシュアップよりも優先度の高い事項があれば、そちらとのバランスをとりつつ、文言やイラスト等については可能な範囲で工夫したものを示したい。
会長	基本構想には、これからの荒川区の全政策課題が示され、かつその整合性がとれている必要がある。極力工夫いただきたい。
委員	次回に向けて準備してほしいこととして３点を述べる。 第一に、区民への周知にあたって具体的にどのような制作物を作成される予定か、現時点での想定あるいは素案段階でも構わないため、周知プランをお示しいただきたい。審議会にて案を募るための資料ということでも良いかと考える。

区 委員 会長 区 会長	第二に、行政運営計画とのつながりがみえるものがあると望ましい。基本構想と行政運営計画のつながりと、行政運営計画がその後どのように各施策の実行につながるのかということがわかる資料があると望ましい。 第三に、第5回審議会では、審議会全体の振り返りを行いたいと考える。一つひとつのテーマは小委員会で20分程度しか検討時間がとれていない。加えてそれらも議論というよりは専門性のある委員の意見に対し、多少議論をする程度であった。同じ時間内でも、議論をさらに深めるような工夫の余地はあったのではと考える。審議会の形式について、各委員の考えておられる改善点等を共有できると良いかと考える。事務局としても振り返りに基づく案をもとに、今後活用いただきたい。振り返りのベースとなる資料があると良いだろう。 今後の周知や、基本構想と行政運営計画とのつながり、基本計画がどのように行政とつながりをもっていくかについては今後お示しする予定である。 振り返りについては、区長への答申後、各委員から5回を振り返ってのご感想をいただく想定であった。議論の題材があった方が良いということであれば、何らかお示ししたい。 言いつばなしにならないような振り返りの場があると望ましい。 以上で資料3、資料4について議事を終了としたい。 事務局からその他追加事項等はあるか。 繰り返しとなるが、次回は会場が異なるため、ご注意いただきたい。 [閉会] 以 上
---	--